

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

（工業専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 1 年次）平成 29 年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			詩吟	整備士に必要な明るく元気に声を出せること。また礼儀、服装など、節度ある態度が身に付くことを目的として行います。	1 前後	31		○			○		○		
○			英語	自動車サービスマンは、「国際人」としても通用するように、基礎知識を身に付けることを主目的とします。	1 前	8		○			○		○		
○			自動車総論	職場、中堅従業員の心得、効果的な仕事の進め方などを理解して、将来中堅従業員としての仕事とその役割を理解する。	1 前	10		○			○		○		
○			ガソリンエンジン構造	ガソリン・エンジンの本体、潤滑、冷却、燃料、吸排気装置の構造や作動、名称などを習得し 2 級自動車整備士資格を目指す。	1 前後	63		○			○		○		
○			シャシ構造	自動車の動力伝達、走行、制動、緩衝、かじ取り、シャシ電装部品の構造や作動、名称などを習得し 2 級自動車整備士資格取得を目指す	1 前後	66		○			○		○		
○			電装品構造	自動車のエンジンに関わる電装品を中心に各装置の構造、作動、機能、保守、整備を学び自動車整備に必要な知識、技術を学びます。	1 前後	50		○			○		○		
○			ジーゼルエンジン構造	ジーゼル・エンジンの燃焼・作動を理解し各装置の構造、名称などを習得し 2 級自動車整備士資格取得を目指す。	1 前後	39		○			○		○		
○			内燃機関	内燃機関の理論サイクルや各種燃料の性状と規格、潤滑剤、作動油等の特徴を習得し、近年の新製品、新規格なども修得する。	1 後	8		○			○		○		
○			自動車製図	自動車製図の基本を習得し、図面を作成する目的、更にもその図面に示す情報が利用できるようにする。	1 後	7		○			○		○		
合計				9 科目							282 単位時間 (単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。	1 学期の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	2 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の 3 の (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 1 年次) 平成 29 年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車数学	国家試験によく出題される計算問題を解く上で、必要となる自動車工学の基礎的な、原理、法則、公式を習得します。	1 前後	40		○			○		○		
○			自動車材料	2 級自動車整備士資格取得を主目的としながらも、近年の新素材やリサイクルを容易にする材料やなども合わせて修得します。	1 後	7		○			○		○		
○			二輪車構造	二輪車の構造・機能・特性並びに整備方法を修得し、2 年次の二輪車実習に結びつく基礎知識、基礎技術を修得する。	1 後	13		○			○		○		
○			整備機器	整備用機器の名称と構造及び取扱い方法や保守管理などについて学びます。	1 後	16		○			○		○		
○			自動車法規	最新の関係法令等及び通達や、法令を理解し自動車整備業界に携われるようし、2 級自動車整備士資格取得を主目的とします。	1 前後	24		○			○		○		
○			基本実習 I 手仕上げ	丸棒から六角ナットを製作する各工程に使用する工具や測定機器、卓上ボール盤、旋盤などの知識や使用方法及び注意事項の修得	1 前	30				○	○		○		
○			基本実習 I 基礎整備	手持ち工具、特殊工具の名称、使用方法及びネジに関する基礎知識、ガレージ・ジャッキ、リジット・ラック、及び 2 柱リフト、油圧リフトの使用方法、安全作業を修得	1 前	30				○	○		○		
○			基本実習 I 基本測定	一般測定機器の名称、構造、原理、取扱い DMM の作製、半田付けの技術及び半導体の知識 DMM を使用して点検方法修得	1 前	30				○	○		○		
○			基本実習 I エンジン	ガソリンエンジンの分解・組み付け、始動を通じて、工具の選択や使用方法並びにエンジン部品各部の測定バルブ・タイミング・ダイヤグラムを修得	1 前	85				○	○		○		
合計			9	科目	275 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。	1 学期の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	25 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の 3 の (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 1 年次) 平成 29 年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基本実習Ⅰ シャシ	MT の脱着作業及びクラッチの分解、組み付け、点検及び MT 分解、点検、組み付け方法および構造、作動の知識を修得	1 前	85			○	○		○			
○			基本実習Ⅰ 電装	点火、始動、充電装置の各構成部品及び回路スター・モータ、オルタナータ、I G コイル、イグナイタ、スパークプラグの点検、測定の方法を修得	1 前	85			○	○		○			
○			基本実習Ⅱ エンジン	実車からエンジンの脱着 6 気筒ガソリンエンジンの分解・組付・点検および冷却、潤滑装置の構造、作動、6 気筒のバルブタイミング・ダイヤグラム	1 後	80			○	○		○			
○			基本実習Ⅱ シャシⅠ	ディファレンシャル、ベアラ・シャフト、ユニバーサル・ジョイント、ステアリングの構造、分解、組付、点検及びホイール・アライメント基礎知識、測定	1 後	80			○	○		○			
○			基本実習Ⅱ シャシⅡ	制動装置全般、ホイール・ハブ分解、組付、点検、調整及びタイヤ・ホイールの基礎知識と脱着及びホイール・バランス調整	1 後	80			○	○		○			
○			基本実習Ⅲ エンジン	電子制御式燃料噴射装置の各種センサー、アクチュエータの種類、構造及び各種制御について修得	1 後	28			○	○		○			
○			基本実習Ⅲ シャシ	AT の分解・組付けを通じて構造を修得 油圧制御および電子制御 AT の各種点検方法を理解して故障探求方法を修得	1 後	28			○	○		○			
○			基本実習Ⅲ 電装	サーキット・テスタおよび各種測定機器を使用し、電気回路を理解して電圧、電流、抵抗の測定技術を修得	1 後	28			○	○		○			
合計			8	科目	494 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。	1 学期の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	25 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の 3 の (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4-3)

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 一級整備士コース2年次) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			詩吟	整備士に必要な明るく元気に声を出せること。また礼儀、服装など、節度ある態度が身に付くことを目的として行います。	2前後	28		○			○		○		
○			自動車環境	自動車から排出される有害物質、騒音、代替エネルギーを利用した最先端技術を駆使した自動車、エンジンの仕組み・システム	2前後	13		○			○		○		
○			自動車数学	国家試験によく出題される問題で、必要となる自動車工学の基礎的な、原理、法則、公式を習得します。	2前後	21		○			○		○		
○			電子工学	自動車に使用されている電子部品の種類、構造、機能及び故障探求に使用するテスターの使用方法。また自動車の電子制御の基礎から応用	2前後	15		○			○		○		
○			材料力学	国家試験によく出題される計算問題を解く上で、必要となる自動車工学の基礎的な、原理、法則、公式を習得します。	2前	10		○			○		○		
○			教育指導	職場で働くリーダーとして必要な基本知識・教養を身につけ、職場のリーダーとしての仕事と役割を理解する。	2前後	16		○			○		○		
○			自動車新機構	近年開発された新技術・新機構、次世代の自動車の専門的で先進的な技術知識	2後	16		○			○		○		
○			ガソリンエンジン整備	ガソリン・エンジンに関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領（点検、分解、組付けを含む）	2前後	31		○			○		○		
○			シャシ整備	シャシ部品に関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領（点検、分解、組付けを含む）	2前後	31		○			○		○		
合計			9 科目		181 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は6以上、実習科目は7以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

（工業専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 2 年次）平成 29 年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ジーゼルエンジン整備	ジーゼルエンジンに関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領がツインエンジンとの相違点を考察する	2 前後	29		○			○		○		
○			電装整備	エンジンに関わる電装品について、電気工学の基礎理論（電気・電子理論）と関連付けながら、各装置の構造、点検整備	2 前後	13		○			○		○		
○			故障探求	自動車の故障の種類や原因、効率的な診断方法に対する考え方	2 後	20		○			○		○		
○			二級演習	幅広く二級自動車整備士試験に出題されそうな問題を掘り起こし、再度学ぶことにより、全員二級自動車整備士資格取得を目指す	2 後	81		○			○		○		
○			整備機器	整備用機器の名称と構造及び取扱い方法や保守管理などについて学びます。	2 前	18		○			○		○		
○			自動車検査	「道路運送車両法の保安基準」に定める保安上または公害防止上、その他の環境保全上の技術基準で、自動車の検査業務を行う際に基準判定が出来るようにします。	2 前後	24		○			○		○		
○			特殊機構 二輪	二輪車の基本的な構造を学習し、点検、調整を行います。	2 前	35				○	○		○		
○			特殊機構 エンジン	ロータリー・エンジン、LPG・エンジン、吸排気装置の構造作動を学習し、各部件の整備作業（分解、組立、点検）を行います。	2 前	35				○	○		○		
○			特殊機構 空調	エア・コンディショナー、ヒーターの構造・作動を学習し、構成部件の分解・点検作業を行う。	2 前	35				○	○		○		
合計			9 科目		290 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	2 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の 3 の (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 2年次) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			応用実習Ⅰ エンジン	各種ガソリン・エンジンの分解・組み付けを通じて、より一層理解を深めるとともに、エンジン部品各部の点検・測定・良否判定を行います。	2前	80			○	○		○			
○			応用実習Ⅰ シャシ	大型車に使われているブレーキ装置、サスペンションについて、小型車との違いを把握し理解を深める。	2前	80			○	○		○			
○			応用実習Ⅰ 電装	シャシ電装の点検を通して、電気システムに対する理解と故障探求を身に付ける エア・バッグ装置、カー・ナビゲーション・システムの構造を理解させる。	2前	80			○	○		○			
○			応用実習Ⅱ ジーゼル	ジーゼル・エンジン本体及びノズル、噴射ポンプ、グロー・プラグについて構造・作動とガソリン・エンジンとの違いなどを学習し、分解、点検、組付け・点検を行う。	2後	70			○	○		○			
○			応用実習Ⅱ 検査	自動車検査作業の流れを、検査機器を通して理解し、機器の取扱いや、記録簿への記載方法を学び、検査の良否判断能力をつける。	2後	70			○	○		○			
○			応用実習Ⅱ 総合	エンジン、シャシ、電装の総合的な実習を通じスキャンツールの取扱いなども習得する。	2後	70			○		○	○		○	
○			フロントマン 実習	フロント業務は、お客様と接する最前線であり、整備事業発展のための中心的役割を担っていることを認識させる。	2後	35			○	○		○			
合計			6	科目	485 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は 6 以上、実習科目は 7 以上の評価を全て受けていること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	2 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 3年次) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンジンⅠ	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、筒内噴射式 G/E、コン・レール・システムの概要、構造・機能点検・整備の要点及びシステム整備	3前	16		○			○		○		
○			エンジンⅡ	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、HV、CNGの概要、構造・機能点検・整備の要点及びシステム整備上全般	3後	13		○			○		○		
○			シャシⅠ	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら CVT、車両安定制御装置の概要、構造・機能点検・整備の要点及びシステム整備上の全般	3前	16		○			○		○		
○			シャシⅡ	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、電動式パワー・ステアリングの概要、構造・機能点検・整備の要点及びシステム整備	3後	13		○			○		○		
○			熱力学	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車における熱と力の関係に関する理論を習得します。	3前	8		○			○		○		
○			メカトロニクス	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車におけるメカトロニクスに関する理論を習得します。	3前	11		○			○		○		
○			センサ工学	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車における各種センサの働きに関する理論を習得します。	3前	7		○			○		○		
○			自動車材料	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車における各種材料の特性とリサイクルに関する理論を習得します。	3前後	8		○			○		○		
○			燃料・潤滑剤	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車における燃料と潤滑に関する基礎理論を習得します。	3後	11		○			○		○		
合計			9 科目		103 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は 8 以上の評価を全て受けていること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	2 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

（工業専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 3年次）平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			機械設計	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車における機械の運動と作用、作動に関する知識を習得します。	3前	8		○			○		○		
○			エンジン	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、エンジンの高度整備技術に関する知識を習得します。	3前後	36		○			○		○		
○			シャシ	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、シャシの高度整備技術に関する知識を習得します。	3前後	38		○			○		○		
○			電装	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、電装品の高度整備技術に関する知識を習得します。	3前後	39		○			○		○		
○			故障探求	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、騒音・振動の高度整備技術に関する知識を習得します。	3前後	44		○			○		○		
○			総合診断	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車整備に関する総合診断に関する知識を習得します。	3後	44		○			○		○		
○			環境保全	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車整備事業に必要な環境整備に関する知識を習得します。	3後	11		○			○		○		
○			安全管理	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車整備事業に係わる安全管理に関する知識を習得します。	3後	7		○			○		○		
○			整備機器	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、整備に使用する整備機器の構造、特性を理解し取扱方法や作業手順を習得します。	3前後	19		○			○		○		
合計			9	科目	246 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は8以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

（工業専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 3年次）平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車検査	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車の検査に対する幅広い知識を習得します。	3後	11		○			○		○		
○			自動車法規	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車を取り巻く幅広い法規の知識を習得します。	3前後	17		○			○		○		
○			サービス マネージメント	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車整備事業を取巻く幅広い一般教養を習得します。	3前	25		○			○		○		
○			機械工作実習	機械工具の安全な取扱いと正確な計測作業及び、作業の出来栄え及び管理状況、作業態度、整理整頓を修得する。	3前	55				○	○		○		
○			エンジン 電子実習Ⅰ	エンジン電子制御装置の電気回路、電子回路のオシロスコープにて信号波形を出力や外部診断器を使用した整備技術を修得する。	3前	120				○	○		○		
○			シャシ 電子実習Ⅰ	電子制御式ATの高度故障診断技術及びオートAC ABSの構成、特性を理解し整備時の注意点、点検方法を修得させる。	3前	120				○	○		○		
○			エンジン 電子実習Ⅱ	筒内噴射式ガソリン・エンジン及びHV車、並びにコンロールシステムの構成、特性を理解し整備時の注意点、点検方法を修得させる。	3後	90				○	○		○		
○			シャシ 電子実習Ⅱ	CVT、EPSの構成、特性を理解し整備時の注意点、点検方法及び自己診断機能及び外部診断機を使用しての整備技術を修得させる	3後	90				○	○		○		
○			総合実習	不具合現象を客観的に捉える能力や、基本点検を怠らず自己診断機能、外部診断機に頼りすぎない故障診断能力を修得させる。	3後	35				○	○		○		○
合計			9 科目		563 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は8以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 3年次) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			サービス マネージメント 実習	総合実習にて習得した内容をもとに、ユーザーへの情報提供として必要になる問診、診断、整備計画等と整備結果の内容説明などの応酬話法を習得させる。	3 後	145			○	○		○			
合計			1	科目	145 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は 8 以上の評価を全て受けていること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	2 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3の(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 4-3)

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 4 年次) 平成 29 年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			サービス マネージメント	ユーザーの保守管理を支援するための幅広い知識を理解し、社会性の高い自動車整備技術者となり後輩の指導・育成など先導的な役割を担うことができるよう学習します。	4 前後	12		○			○		○		
○			評価実習	振動・騒音のメカニズム、低減方法を理解し故障診断技術、故障診断方法、整備技術を修得させる。定期点検整備、総合診断技術及びフロント実務の修得	4 前後	605				○	○		○		
○			体験実習	学校で学んだ技術を企業において実践。職場を体験させ職業人としての心構えと意識を持たせ、自分に必要な学習項目を具体的に自覚、認識させる。	4 前	225				○		○			○
○			サービス マネージメント 実習Ⅱ	多様化する自動車ユーザーの保守管理を支援するための情報提供手段、顧客管理、データベースの作成等の幅広い知識を学習します。	4 後	160				○	○		○		
○															
○															
○															
○															
○															
合計			4 科目		1002 単位時間 (単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の 90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は 8 以上の評価を全て受けていること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	2 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の 3 の (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。